

川越町の子どもたちの学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査の結果報告～

令和元年 9月27日

川越町教育委員会

川越町立川越南小学校

本年4月、小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお伝えします。川越町教育委員会では、結果からわかる、子どもたちの「強み」「弱み」等の傾向をとらえ、具体的な施策に反映していきます。つきましては、保護者の皆様には、家庭生活や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。

なお、この調査は学力の特定の一部分を測るものであり、学力のすべてを測るものではないことをご理解ください。

1. 学力・学習状況調査結果



全国学力・学習状況調査について

昨年度まで、A問題（主として「知識」に関する問題）とB問題（「活用」に関する問題）に分けて実施されていましたが、本年度からは統合して実施されています。

（1）学力調査の結果

□全体の傾向・・・正答率の低い児童数は減少し、学力の向上が顕著に表れている。

国語：正答率の低い児童が少なく、正答率が中位からやや高い児童の割合が多い。

算数：正答率の低い児童は少ないが、正答率の高い児童もやや少ない。

	強みと弱み（強み・・・「◎」 弱み・・・「◇」）
国語	◎全体的に無解答率が低い。 ◎目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読める児童が多い。 ◎話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問ができる児童が多い。 ◇目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く力に課題がある。 ◇文と文との意味のつながりを考えながら、接続詞を使って2文に分けて書く力に課題がある。

算数	◎全体的に無解答率が低い。 ◎グラフから、資料の特徴や傾向を読み解ける児童が多い。 ◎示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式できる児童の割合が多い。 ◇図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成する力に課題がある。 ◇示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述で説明できない児童の割合が多い。 ◇示された除法の式の意味を理解できていない児童が多い。
----	---

(2) 児童質問紙による生活調査結果

①学習時間帯

Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか（学習塾や家庭教師含む）

・学習時間が1時間以上の児童の割合・・・全国：66.1％ 川越町：69.6％

***毎日1時間以上学習する児童の割合は全国平均より多い。家庭学習に対する意識が高まっている。**

②計画的な家庭学習

Q：家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。

・（どちらかといえば）している児童の割合・・・全国：71.5％ 川越町：75.0％

***約75%の児童が計画的に家庭学習に取り組んでいる。**

③読書習慣

Q：学校の授業以外に、普段（月～金曜日）どのくらい読書をしますか。

・1日の読書が30分以上の児童の割合・・・全国：39.8％ 川越町：39.8％

・読書を全くしない・・・全国：18.7％ 川越町：16.4％

***40%の子どもたちがほぼ毎日読書をしているが、その一方で、「全く読書をしていない」子どもたちの割合が16%となっている。**

④基本的生活習慣

Q：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

・起きている児童の割合・・・全国：58.7％ 川越町：52.3％

Q：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

・寝ている児童の割合・・・全国：38.9％ 川越町：35.2％

***就寝時間に関しては、不規則な児童がやや多い。**

⑤自尊感情

Q：自分には、よいところがあると思いますか。

・（どちらかといえば）あると答えた児童の割合・・・全国：81.2% 川越町：82.8%

***自尊感情の高い児童の割合が全国平均よりやや多い。**

⑥キャリアの形成

Q：将来の夢や目標を持っていますか。

・（どちらかといえば）持っている児童の割合・・・全国：83.8% 川越町：85.1%

***将来の夢や目標を持っている児童の割合が全国平均よりやや多い。**

⑦家庭でのコミュニケーション

Q：家の人と学校での出来事について話をしていますか。

・（どちらかといえば）話をしている児童の割合・・・全国：77.4% 川越町：78.1%

***約20%の児童が、家の人と学校での出来事について話すことについて否定的回答をしている。**

⑧主体的・対話的な深い学びについて

Q：今まで受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

・（どちらかといえば）取り組んでいた児童の割合・・・全国：77.7% 川越町：74.2%

Q：今までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。

・（どちらかといえば）工夫して発表していた児童の割合・・・全国：62.5% 川越町：63.3%

Q：児童生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

・（どちらかといえば）できていると回答した児童の割合・・・全国：74.1% 川越町：69.5%

***主体的に学習しようとする児童生徒の割合は74%となっているが、自分の考えをうまく伝えるように工夫して発表することは苦手である。**

（３） 学校質問紙の結果からみえる児童の姿

① 基礎・基本の力をつけていくために、「国語（算数・数学）の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えたか」という問いに対し、本校では全校的に取り組んできたので、「よく行った」と回答しています。こういった取組から、児童全員が回答している設問が増え、無答率がほぼ全国や三重県よりも下回っています。毎日の授業や家庭学習を大切にすることが、粘り強く取り組む子どもたちの姿につながっています。

② 「前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか。」という質問に対し、「行っている」と回答しています。本校では算数科を中心に夏休みや放課後の時間を使い、補充的な学習の指導を行っています。子どもたちの質問用紙の結果からも、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで取り組んでいるという思いがみられ、最後まであきらめずに学習に取り組む姿勢が身についてきています。

③ 「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたか」という問いに対し、町の重点でもあることから「取り組んでいる」と回答しています。教育活動において様々な場面で挑戦する場を設定して取り組んでいます。

が、子どもたちの自尊感情の高まりにまだまだつながっていない状況です。しかしながら、昨年度と比較すると改善の傾向が見られるため、今後も意欲を持って挑戦しようとする機会を意識的に設定し、一人ひとりにより点や可能性を見つけ、積極的に評価および承認を行っていくことで、自尊感情の高まりへつなげていく必要があるととらえています。

- 「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保して授業を進めたか」「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか」という問いに対し、「取り組んでいる」と回答しています。互いの考え方を交流したり自らの考えを深めたりするための時間確保はされていますが、理解力および活用力向上へつながる手立てとなるよう、友だちと共に考え、自らの考えをまとめて表現する活動を積み重ねていくための授業展開の工夫が必要であるととらえています。

2. 学力・学習状況調査結果の「弱み」を改善するための対策



全体を通して

全教科において、教科特有の「見方・考え方」、つきたい力を明確にし、児童生徒自身が「何を学んだか」「どんなことができるようになったか」を実感できるよう授業改善を進める。

1. 「めあてとふりかえり」（目標の提示、振り返り活動）のある授業の徹底を図り、子どもたちが「できた」と実感が持てる家庭学習へつなげる。
2. 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。
3. あらゆる機会をとらえ、自分の考えを整理して書く力をつけるための指導を行う。
4. 内容を大まかにとらえる指導により、読み取る力を育てる。
5. 一人一人の学習状況を十分とらえ、少人数による効果的な指導を行う。

国語

1. 書くことの指導の充実

- ・書く活動において、児童生徒の興味関心に応じた題材を設定したり、目的や相手を明確にしたりすることで、児童生徒が主体的に取り組めるように工夫する。
- ・発達段階に応じて「字数制限やテーマなどの条件を与えて書く活動」を、授業の中に継続的に取り入れていく。（国語に限らず他教科においても「条件を与えて書く」活動を行っていく）
- ・自分の考えを書く活動では、順接、逆接、並列など、言葉と言葉や文と文の関係を考えながら正しい接続語を使えるように指導する。
- ・各学年において習得すべき漢字の徹底を図る。

2. 語彙（ごい）を豊かにする指導の工夫

- ・文脈に即した漢字や語句を習得するために、例文やフレーズで覚える学習を数多く取り入れる。
- ・国語辞典を効果的に活用し、語彙の定着を図る。
- ・いろいろな文章や作品に出会わせるために、読み聞かせの機会を充実したり、選書コーナーを設置したりする。読書タイムを設定するなど、各校において読書活動や学校図書館での活動を工夫する。

3. 自分の考えをまとめる活動の充実

- ・授業における話し合いや毎時間のめあてに対するふりかえりの中で、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。発達段階や内容に応じて、字数制限などの条件を与えて書かせるようにする。
- ・自らの問題解決に必要な資料や情報を選択・活用し、友だちと互いに意見を出し合って自分なりの考えをまとめる活動を取り入れる。
- ・学習したことが日常生活につながっていることを意識できるような授業づくりを心がける。

4. 短時間で文章から様子やあらすじをイメージし捉える力をつける

- ・初めて読む文章から得た情報を整理し、短時間で大まかな「あらすじ」をつかんだり、登場人物の心情について確認したりする学習活動を行う。

算 数

1. 基礎的な力をつける時間の確保

- ・基礎となる内容の定着のために、ていねいに指導できる時間の確保と家庭学習の充実を図り、定着に向けた取り組みを進める。

2. わかる授業を目指した授業展開の工夫

- ・社会の事象や数学の事象から課題を見出し、児童生徒が主体的に取り組める授業を展開していく。また、算数・数学の時間に学習したことを日常生活の中で活用できるように工夫する。
- ・算数・数学用語、数学的な表現を用いて「◎◎であるから、△△である。」の形式で記述させたり発表させたりする。
- ・言葉や数・式と、図・表・グラフなどを関連付けた授業を取り入れる。
- ・「ふりかえり」の時間を大切にするとともに、子どもたちの理解度を測る評価問題などを適切に取り入れる。

3. 図形の性質や構成要素を正しくイメージし理解できるように

- ・実際に平面図形を使って操作させるなど、具体物を使う経験をさせる活動時間をしっかりと確保をする。
- ・ICT 機器の導入に伴い、映像を見たりソフトを活用したりすることがより容易になる。「図形イメージの確認や理解」のために ICT 機器の活用を積極的に行う。

3. 町教育委員会による手立て



(1) 少人数教育の充実

少人数での指導体制を継続し、国語科および算数・数学科を中心とした基礎的基本的な力の向上を目指します。

(2) きめ細やかな指導体制の充実

町非常勤講師や学習支援員及びA L Tの配置を生かした指導のあり方をさらに充実し、一人一人の子どもたちが学びやすい環境づくりを進めます。

(3) 学力向上推進委員会の機能的な運営

川越町学力向上推進委員会において、各学校の児童生徒分析や取組について協議・情報交流を行い、子どもたちの学ぶ力を伸ばすための授業改善を進めます。また、川越町全体で進める学力向上策について検討します。

（４）校内研修等への訪問指導・支援

北勢教育支援事務所および町教育委員会の指導主事、学力向上アドバイザーが各校へ訪問し、学力向上に向けた校内研修への指導・支援を拡充します。また、学力の定着を図るための授業のあり方について、教職員に向けた継続的な直接指導を進めます。

（５）家庭学習および読書活動の推進

三重県下で展開されている学力向上県民運動と連動しながら、各校が配付している家庭学習の手引きやシラバス（授業計画）をもとに、「家庭学習の定着に向けた取組の必要性および具体的な家庭支援法」を各家庭へ呼び掛けていきます。また、「読書旅行（読書日本一周・読書世界一周）」の取り組みを推進し、小学校低学年から語彙量（ごいりょう）を増やしていきます。

「豊かな心」を土台とした社会で生きていく力の育成

2019年4月に改定しました川越町教育基本方針で示した通り、川越町は【「豊かな心」を土台とした社会で生きていく力の育成】を基本方針としています。「知」知識・技能、「情」情操、「意」意思の3つがバランスよく調和することが、子どもたちが「社会で生きていく力」となります。豊かな心を養うために、「非認知能力を高めること」「個性を大切にすること」「相手の個性を尊重すること」を意識してすべて教育活動を行っていきます。

4. 川越南小学校の取り組み



（１）校内学力向上推進委員会による分析及び検討

各学年で国語科・算数科のテストに関して目標値を設定し、各学期末に校内学力向上推進委員会において、その達成度を交流し合います。その中で、成果と課題を明らかにするとともに、学力向上に向けた具体的方策等を検討していきます。

今後も引き続き全国学力・学習状況調査や到達度検査（CRT）、「みえスタディチェック」の結果に基づき、校内学力向上推進委員会で本校児童の学力状況を把握したうえで、定着が不十分な分野を系統的に低学年から指導できるように、全校体制で指導の改善に努めていきます。

（２）「めあて」と「ふりかえり」を位置づけた授業の継続

「めあて」を持たせることにより、この授業で何を学習するのかが子どもたちにとって明確になります。また、授業の終盤に、「ふりかえり」をすることにより、この授業で何を学んだのかを子どもたち自身が確かめられるようになり、学習内容がより定着するようになります。引き続き、「めあて」と「ふりかえり」を位置づけた授業に取り組んでいきます。

（３）算数科における少人数・習熟度別授業の推進

川越南小では、算数科において、きめ細かな指導が行えるように体制を整備して、日々の授業に取り組んでいます。

低学年では、各クラスに毎時間学習支援員が入り学習を支援しています。3年生では、各クラス担任の他にもう一人教員が入り授業を行っています。4・5・6年生では、習熟度に応じて「じっくり」「のびのび」「どんどん」の3つのコースに分かれて、学習を進めています。

どの学年においても、個々の児童の実態に合わせ、一人ひとりの「つまずき」にすぐに寄り添える体制をとっています。今後も、学力向上に向けて、少人数・習熟度別指導を充実させて

いきたいと思います。

(4) 授業力向上に向けた校内研修の充実

川越南小では、算数科を中心に研修を進めています。外部から講師を招いて、各学年・学級の授業を相互に参観して話し合い、講師の指導助言を受けながら、授業力向上につなげています。

本年度からは、国語科においても外部講師の指導を受け、授業力向上につなげています。

今後も、子どもたちができる喜びを感じる授業づくりを目指し、校内研修の充実を図っていきます。

(5) 「読む」活動の定着

全国学力・学習状況調査やみえスタディチェックの問題は、今後子どもたちが必要とされる「学力」を表しています。校内学力向上推進委員会で問題を分析する中で、子どもたちの「読む」力の育成が必要であると考えました。「内容を十分に読み取ることができないから、答えることができない」といった「つまずき」を感じる児童がいると考えられます。読む力はすべての学習の基盤です。「目的に応じ、内容の中心、要旨をとらえながら読む能力」の育成に力を入れていきたいと思っています。

川越町では、読書推進の一環として、「読書世界（日本）一周」に取り組んでいます。今後も、授業だけでなく、学校の多様な学習の場で、「読む」力の育成に力を入れていきたいと思っています。さらに「読む」力の育成には、家庭学習での音読や読書なども重要です。引き続き、家庭学習での取り組みへの支援を呼びかけていきたいと思っています。

(6) 「書く」活動の定着

全国学力・学習状況調査の記述式の問題から、本校の児童は、求められたすべての条件を落とさずに書いたり、要点をまとめて書いたりする力が不十分であることがわかりました。この傾向はすべての教科に当てはまると考えられます。そこで国語科に限らず、他の教科の授業でも様々な場面で「書く」活動を取り入れていきたいと思っています。

5. 家庭・地域へのお願い



(1) 家庭学習の習慣を定着させる・・・見守る、声をかける

子どものノートや学習したプリント等にてできるだけ目を通し、「見守り・声かけ」をしていただくようお願いします。家庭学習を継続させるためには、声をかける、頑張りの過程をほめる、励ますことで、子どものやる気を引き出すことも保護者の役割です。

【家庭学習を習慣化するポイント】

《児童・生徒》・毎日、決まった時間に決まった場所で勉強する。

- ・テレビ・スマートフォン等の電源を切って、集中して勉強する。
- ・机の上をかたづけて、良い姿勢で勉強する。

《保護者》・カレンダーに「○」を付けるなど、学習の記録を記すようにし、子どもたちの頑張りを「見える化」し、ほめる。

(2) テレビ、ゲーム、スマートフォン等との上手なつきあい方を教える・・・ルール作り

テレビやゲームを楽しむ時間や、スマートフォンを使用する時間、方法などについて、家庭でのルールづくりをしていただきますようお願いします。家族同士の触れ合いはコミュニケーション能力の向上にもつながります。

例) 毎週水曜日は「ノーテレビ・ノーゲームデー」にする。

夜の10時以降は、携帯電話やスマートフォンを使わない。 など

(3) 難しいことにも挑戦する心を育てる・・・ほめて伸ばす

今回の児童生徒質問紙の結果からも、「約20%の児童、約30%の生徒が、家の人と学校の出来事について話をしていない」という状況がみられました。また、全国的に、自分自身になかなか自信が持てず、自分で考えたり、自分で決めたりしにくい子どもが増えています。「家族で決めた約束が守れた」「頼んだ仕事できた」など、子どもが何かを継続して行ったときや、以前よりも進歩や成長が見えたときには、その機会を見逃さず、きちんとほめましょう。成功や失敗、順位や点数等だけに注目するのではなく、過程も含めて、子どもの意思で行動したことを評価することが大切です。

【子どものほめ方のポイント】

- 他の子（友だちやきょうだい）と比べてほめない
- よかったことを具体的にほめる
- 結果（順位や点数等）に注目せず、努力したことをほめる
- その場ですぐほめる

「ほめて伸ばす」ことは、「叱ってはいけない」ことではありません。人のことを考えず、我慢のきかない子どもにならないように、悪い事は悪いと教え、目指すべき良き行動がとれるように子どもを導いていきましょう。

(4) 親子で読み聞かせや読書をする機会を大切にする・・・家庭読書習慣

「語彙（ごい）の量と質」の違いが学力差に大きく影響しているとの指摘があります。まずは、おうちの方からの読み聞かせや、テレビの時間を読書の時間に変えることから始めましょう。はじめは受動的な読書かもしれませんが、しかし、その時間を継続的にもつことで、やがて子ども自らが本と向き合うことのできる能動的な読書へつながっていくと考えます。ぜひ、子どもたちの「本を読んでほしい」「本を読みたい」という気持ちを大切にしていきましょう。

みえの学力向上県民運動

学校・家庭・地域の教育力を高めよう！

みえの学力向上

検索

